とめNNだより

令和８年11月発行
第44号

今号の内容

1. 特定家畜伝染病発生時における防疫演習を実施 ・・・・・・・ P1
2. 登米地方農業水利施設ストックマネジメント推進会議を開催 ・ P2
3. 農地集積推進に関する戦略会議を開催 ・・・・・・・・・・・・ P2
4. 農地整備事業「沼崎・大平地区」の稲刈り ・・・・・・・・・・ P3
5. 穴山幹線用水路壁画アート ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
6. Tome 米祭で「田んぼダム」のパネルを展示 ・・・・・・・・・ P4

1 特定家畜伝染病の発生時における防疫演習を実施しました

令和８年１０月２０日（火）に、宮城県建設業協会登米支部（以下、県建設業協会登米支部）と東部地方振興事務所登米地域事務所主催による「令和８年度特定家畜伝染病の発生時における防疫演習」を開催しました。

この演習は、鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病が発生した場合、速やかに処分、運搬、埋却作業ができるよう平成２９年度から開催し、今年で８回目となります。

演習は登米市迫町北方の㈱太田組の社用地を会場として行われ、雨天の中、県建設業協会登米支部の会員１９社と当所職員等あわせて８３名が参加しました。

今年度は、殺処分後の家畜を農場外へ搬出するという想定で、埋却地の掘削、ブルーシートの敷設及び埋却物の積み下ろし、消石灰散布による消毒作業を、その前後に防護服の着衣及び脱衣訓練を行い、作業手順等を確認しました。演習参加者からは、防護服の着脱埋却作業を事前に体験することが出来て良かったとの感想が寄せられる等、有意義な演習となりました。

当管内ではこれまでに特定家畜伝染病は発生しておりませんが、万が一、発生した場合は防疫作業が円滑に進むよう、今後も防疫演習を継続し、県建設業協会登米支部をはじめ各関係機関と協力して対応出来る体制を整えてまいります。



ブルーシート敷設作業



埋却物積み下ろし作業

2 第１回登米地方農業水利施設ストックマネジメント推進会議を開催

令和８年９月１６日（水）に「令和８年度第１回登米地方農業水利施設ストックマネジメント推進会議」を登米合同庁舎において開催しました。

登米管内の用排水機場施設は４２２施設で、その８割が標準耐用年数を超過し、県全体の７割を上回っており、近年突発事故が多発している状況にあります。今年度はすでに１０件以上の突発事故が発生しており、早急な対応が求められています。

このような状況を踏まえ、会議では、施設管理者自らが実効性のあるストマネ推進計画を策定し、ストックマネジメントを推進していけるよう話し合いました。

また、８月２８日に開催された令和８年度農業水利施設ストマネ県推進会議の内容を情報共有するとともに、令和９年度以降の事業要望量が非常に多く、事業費が国費・県費（キャップ）ともに前年度確保した予算の上限を超える状況となっているため、各地区の工事実施時期や事業規模の見通しを整理し、計画的な執行管理が必要であることを周知しました。

次回以降の会議では、突発事故の対応に必要な施設の機能保全計画や監視計画の作成、標準耐用年数を超過した施設の機能保全対策について話し合う予定です。



3 農地集積推進に関する戦略会議を開催しました

令和８年８月３１日から１０月２７日にかけて、管内の農地整備事業実施地区に係る「令和８年度農地集積推進に関する戦略会議」を開催しました。この会議は、宮城県・登米市・管内土地改良区・みやぎ登米農業協同組合・公益社団法人みやぎ農業振興公社・宮城県土地改良事業団体連合会等の関係機関が集まり、農地集積状況の確認、地区の課題整理・解決に向けた方針等を検討する場となっています。

対象地区５地区のうち、「古宿地区」と「米川地区」は本年度から農地整備工事が始まった地区であり、来年の春先には一時利用地の指定が始まります。そのため、目標集約化率達成の実現に向けた合意形成や、経営の安定化を目指した高収益作物への取り組みなどが課題となっています。今回、地域の現状及び課題を共有した上で次年度へ向けた今後の進め方を検討し、課題解決へ向けて取り組むこととなりました。



【解説】農地の集積・集約化とは

農地の集積とは、農地を所有し、又は借り入れること等により、利用する農地面積を拡大することをいう。農地の集約化とは、農地の利用権を交換すること等により、農地の分散を解消することで農作業を連続的に支障なく行えるようにすることをいう。（令和７年度食料・農業・農村白書より引用）

4 農地整備事業「沼崎・大平地区」の稲刈りについて

登米市南方町の蕪栗沼北部に位置する沼崎・大平地区の大区画化された水田で稲刈りが行われました。

本地区は、令和５年度から農地整備工事が始まり、地区全体面積約 53ha のうち約 47ha のほ場整備が終わりました。整備された田んぼは区画が 1ha～2ha に大きくなり、農道の幅も広くなって、その結果、コンバイン等の大型機械の導入が可能となるほか、農業機械のターンの回数や、ほ場間の移動に要する時間が短縮される等、作業の効率化が図られます。

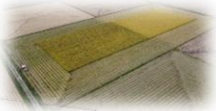
調査結果によると、ほ場整備の前後で作業時間を比較すると労働時間が約 4 割低減しており、2ha 区画では更に労働時間の短縮が期待されます。地元農家からは、「今年の稲刈りは例年より速く進めることができた」「従前の田んぼより大きくなったことで、１年を通してとても営農しやすくなった」と喜びの声が聞かれました。

今年は長雨の影響で、稲刈りがやや遅れていましたが、収穫した米の収量・出来栄えは例年並みと良好な結果となりました。

残り約 6ha のほ場整備工事は、今年度末に完成する予定です。







5 穴山幹線用水路壁画アート　～今年もかわいい画家達が描きました～

稲刈りも終盤の 10 月後半、米山町西野の穴山幹線用水路の壁に、地域の子供たちが描画活動を行いました。これは、農業・農村の持つ多面的機能のひとつである農業水利施設や土地改良区の役割について情報発信を行い、地域住民からの理解と協力を得ることを目的に、迫川沿岸土地改良区が２１世紀土地改良区創造運動の一環として平成 15 年度から継続して取り組んでいる描画活動です。



今年は 10 月 18 日に米山 Jr.バスケットボールクラブの子供たちと保護者総勢 30 名が参加して巨大なコンクリートのキャンバスにペンキを塗り、壁画を完成させました。総延長 530 メートルの壁画は色褪せた区画を新しい絵に塗り直しながら維持しています。活動初期に参加した子供たちも今は大人になり、保護者として参加された方もいたかもしれません。

参加した子供たちは、時々歓声を上げながら、終始楽しく活動していました。

完成した作品は素晴らしい力作です。近くにおいでの際は、田園地帯に広がるこの壁画アートを是非ご覧ください。



6 Tome 米祭で「田んぼダム」のパネルを展示しました

令和 8 年 11 月 8 日（日）、エスファクトリー東北中江公園等を会場に、登米地域の「米」の魅力を伝えるイベント「Tome 米祭（とめこめまつり）」が開催されました。当日は天候にも恵まれ、登米市内外からたくさんの人が来場し、大いに賑わいました。

人気の飲食ブースでは、今年収穫したばかりの新米のごはんなどが来場者に振る舞われ、「登米のお米はとても美味しい！」と大絶賛でした。



興味のある方は出前講座をどうぞ！詳細は下記へお問合せください





登米 NN は、このイベントで「田んぼダム」のパネルを展示しました。田んぼダムとは、大雨が降った際、一時的に田んぼに雨水を貯留し、時間をかけてゆっくりと川へ排水することで、下流にある農地や市街地での洪水被害を軽減しようという取り組みです。田んぼダムの認知度はまだまだ低いですが、たくさんの人が足を止め、パネルや落水桝の模型に興味深く見入っていました。このパネル展示をとおして、田んぼは美味しいお米を作っているだけではなく、近年多発している大雨や豪雨などの水害から私たちの地域や暮らしを守ってくれる機能があることを多くの方に知っていただくことができました。

県はこの田んぼダムの取り組みを推進しており、登米管内のほ場整備地区でも田んぼダムの取り組みが始まっています。地域の方々の田んぼダムへの理解が進みこの取り組みが拡大することで、洪水被害の軽減が大いに期待されています。

今後も地域の皆様に田んぼダムの理解を深めていただけるよう PR を継続し、田んぼダムの普及拡大を目指します。





「とめ NN だより」は、農業農村整備部(通称 NN 部)の広報広聴活動の一環として、登米管内の農業農村整備事業に関連する活動を広くお知らせする目的で、年３回発行を予定しております。掲載内容についてお問い合わせ等ありましたら、管理調整班までご連絡ください。

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部　広報広聴委員会（編集:管理調整班）

〒987-0511　宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
Tel：0220-22-5169　　Fax：0220-22-6015
E-mail：et-tmnnbkt@pref.miyagi.lg.jp
URL：https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-ns/

こちらからもアクセス出来ます!!